# 時事新報

東京　明治十七年一月十四日　月曜日　第五百五十八號　日曜日休刊　定價金三錢


## 時事新報

左ノ論ハ十數年間米國ニ在留シ一昨年歸國シテ當時米國經育州ニ在ル「ドクトル、シモンス」氏ヨリ寄送シ來リタルモノナリ此書簡ニ添エタル氏ガ書翰ヲモ左ニ併記ス

（前略）今便清佛葛藤ニ關する一篇呈貴覽候若し君の時事新報に登錄の樂を得は幸甚之至ゑ準存候嘗恐る此書御落手の際は清佛事件も和戰孰れより既ゑ決定し居る折にて封中の一篇之唯蕪雷の用に供そるに過ぎざらんことを云々（以下略ス）

米國經育州ポーキープシイ府ミル街第二百六十六戸
千八百八十三年十一月廿五日　チー、ピー、シモンス拜
益友福澤諭吉君坐下

### 清佛葛藤ノ終局如何

目下清佛間ノ葛藤ハ結ンデ解ケズ東方亞細亞ノ人ニシテ能ク事理ヲ明カニスル者誰カ大ニ其休戚ヲ感セザランヤ回顧スレバ兩國ノ紛議危殆ノ狀勢ヲ顧シテ以來早ク既ニ數個月ニ渉レ共今ニ至ルマデ未ダ結局スル所アルヲ聞カズ偖予ハ爰ニ此葛藤ノ起原ニ付テ其歷史ニ溯ルヲ要セズ又其曲直ノ在ル所ヲ論セズ唯今日ニ際シテ最モ有用ナルハ勉テ左ノ疑問ヲ釋クニ在ルベシト思フナリ

第一　現時費南事件ノ葛藤ハ遂ニ清佛間ノ交戰ヲ見ルニ至ルベキカ

第二　愈々交戰ノ布告アルニ當テ清國ガ佛國ノ如キ西洋ノ一國ト兵ヲ交ユルニ其狀勢ハ如何ナルヘキヤ

第三　佛國ガ遠ク征師ヲ出シ殊ニ交戰久シキニ渉ルニ於テハ本國ノ位置如何ナルベキ歟

第四　他ノ歐洲列國殊ニ英吉利日耳曼ノ二國ハ該事件ニ關シ如何ナル挙動ヲ執ルベキ歟蓋シ戰爭ノ際ニ互市ノ中止セラルベキハ必然ノ勢ヒニテ之ガ爲ニ最モ其損害ヲ蒙ムル者ハ英日ノ二國ナレバ殊ニ其挙動ヲ察セザル可ラズ

予ハ此ヨリ進ンデ之ヲ吾人ガ知悉セル事實ニ照シ以テ右ノ疑問ニ答フル所アラント欲ス抑モ第一ニ兩國ノ戰爭ハ愈々公布ニナルベキヤ否ヤノ問題ニ至テハ佛京巴里府ヨリノ最近報ヲ見ルニ目今ノ形迹、最初葛藤起原ノ際ヨリモ寧ロ和親ノ方向ニ其歩ヲ進メザル者ノ如シ當時清佛談判ノ報告ハ其都度佛國ノ新聞紙上ニ登載シタレバ乃チ取テ之ヲ讀ムニ清國ハ佛國ニ向テ既ニ退讓ナンタリト云ヒ或ハ爲スヲ欲スルナラント云ヒ兎ニ角ニ和親ノ落着ニ歸ミアルガ如クナルニ又一方ニ巴里府ノ清國公使館ハ諸新聞紙ニ右ノ如キ愛報ヲナスノミナラズ佛國ノ官報マデ亦前ル報道ヲ爲スヲ以テ甚ダ不平忿ヲ抱キ且ツ清佛談判ノ一ニ關シテハ他事言説ノ進スル所多々快揚アルヲ既ニ聞ク故ニ此事件ニ關シ東京事件ニ關シ獨國間ニ往復シタル公書ノ全文ヲ公布シタリ、其言ニ曲ヲ見ル時ハ清廷ノ意見彼佛人ノ言フ所トハ全ク異相ノ觀アリトス此公書ノ報スル所ニ由レバ清國ノ欽差大臣ハ今日迄曾テ些少ノ退讓ヲモ爲シタルヿナク且ツ今後迚モ唯東京沿岸ノ數港ヲ除キ外ニ退讓スルノ必アラズトナリ就中容易ナラサル一報ハ清國ハ既ニ戰爭ノ準備ヲ爲シ又何時ニテモ應戰スベシトノコトナリ是故ニ清佛兩國ノ中、孰レカ其地歩ヲ退クニ非サレバ戰爭ノ起ルハ精々必至ノ勢ヒナルベシ

備第二ニ右ノ如ク愈々開戰トナラバ清國ガ兵ヲ交フルノ狀勢ハ如何ナルベキカ請フ進ンデ之ヲ論セン之ニ聞クガ如クナレバ清國ハ五万ノ精兵ヲ有シ器仗能ク整ヒ訓練亦至リ一朝急ニ臨メバ直ニ之ヲ東京ニ派スルヲ得ベシト又聞ク所ニヨレバ黑旗隊ノ軍兵ハ日耳曼人之ヲ訓練シ司令シ該兵又頻リニ佛軍ニ向テ騎兵ヲ出シ對戰ヲ挑ムト云ヘリ又清國ノ兵數ニ關シテハ荷クモ佛軍ノ攻撃ニ抗センガ爲メトナレバ該國ノ養遣シ得ルモノ豈ニ獨リ數千人ノミナラン數十万亦能ク辨スベキハ皆人ノ知ル所ナリ且ツ今日清國ハ數ケ所ノ武器工廠ヲ有シ又外國ヨリモ武器ヲ購フヲ得ルガ故ニ其兵卒ニ供給スルハ決シテ難事ニ非ザルベシ又戰爭ニ最大必要ナル錢幣ノ点ニ至テモ其之ヲ得ル難カラズ何トナレバ清國ノ如キ一大邦土ニシテ其財貨ニ富ムハ勿論ナレバナリ今佛國ガ開戰ニ當テ獨リ東京ニノミ其戰場ヲ限ラズシテ猶清國沿岸繁富ノ都府ヲモ攻撃スルニ於テハ彼清國政府ハ此外國ノ攻撃ヲ防禦スルニ暇ニ獨リ其財貨ヲ利用セザランヤ且ツ又清國ガ國内ニ鑄幣ヲ募ルノ時日ナシトスルモ英國若クハ米國ヨリ其之ヲ借ルニ於テハコレヲ得ルヿヲ亦決シテ難カラザルベシ何トナレハ予ガ見ル所ヲ以テスルニ從來清國ハ常ニ能ク國債ヲ償還スルニ約束ヲ違ヘタルコトナケレバ世界ノ貨幣市場ニ於テモ好信用ヲ有スレバナリ、此外清國ノ海軍モ幾何カ自國ノ用ヲ爲スベシ且ツ歐洲人ガ之ヲ指揮スルニ於テハ多少ニ精鋭ナルベキヤ必セリ爾ノミナラズ清國ハ頗ル能ク水雷火船ノ使用ニ通ジ、既ニ備ヲ以テ急ニ應ズルヲ得ベキモノ其數甚ダ多シト云ヘリ　（未完）

## 電報

○一月一日龍動發　スーダン戰地よりの最近報に曰くローカル將軍は僞聖マーヂーの手配せる數通の書簡を遮ぎり寄ひたり書中の言ゑ從へバマーヂーの謀略い新勝の勢ゑ乘じ手兵を指揮して直に埃及の本國に押寄せんとするに在ると知れりと若しマーヂーが此謀略を實行せんとするに於ては現時埃及駐在の英國兵は埃及邊境防禦のため國國の本軍を救援する命令を蒙むるべし

○十二月十一日巴里發　東京征費議案は大多數にて可決と得たり又下院い必要に際し許諾すべしとの信任投票ゑ

○十二月十七日巴里發　佛國ハ清國ノ欽差大臣ハ今日迄曾テ京征費を議院に要求すべし

ると疑ひらせ又政府は將軍ニール氏に六千の阿弗利加兵と

たり又將軍ボ氏は西貢ゑ

○十二月十九日巴里發　東京議案い共に下院の可決と得

○十二月二十一日巴里發　東の採用する既とゑり電信會社ト、カラブリアの二號既に

ともゑ一月二十三日ゑは安南

旨を明言せり（蓋し電線敷設の東京征費議案は昨日上院に於

數にて經過したり

## 雜報

○勅語　前號ゑ記したる如く院へ親臨開院式と挙行せられ

朕爰ニ親臨シテ開院ノ典ヲ

體シ尚益勉勵アランヿヲ望

○御扇面の畫　今度　皇后宮氏へ御扇面の料紙へ石山寺に清少納言簾捲の圖とを認むべ

○獨逸太子　近頃西班牙國ゑ父獨逸皇帝の命に由り善隣修も訪問そる由

○熱海會合　山縣、西鄕、山田の上來る廿日頃豆州熱海へ入旅行中ゑる井上參議も同地（本月四日の紙上に山田司法しゑ同君は未だ出立せざる由

○大山陸軍卿　同卿には來二都合ゑて近々其留別の宴を

しゑり

○榎本公使　同公使には去る

て十日ゑ歸京すべゑ答なりし

子の浦丸ゑ搭し昨日悉ゑく

と記せしは誤なり）右ゑ付

り又外務省ゑりは新橋迄馬車

○河瀨司法大輔　同大輔い去

十日福岡へ向け發程したる旨

○尾崎參事院議官　同君ゑは

るゑ言を仰付られ多分明日